

「希望郷いわて」

農業・農村の復興に向けて 宇部川地区（久慈市・野田村）の取組

■岩手県農林水産部農村計画課・農村建設課
■岩手県北広域振興局農政部農村整備室

岩手県では、平成27年を「本格復興邁進年」と位置づけ、被災者の皆さんが意欲を持って復興に邁進していくことができるよう、「復興第一」で県政を推進しています。

農地・農業用施設の復旧状況については、平成23年度から、本誌において『希望郷いわて』農業・農村の復興に向けて』と題して紹介してきました。



本号では、津波被災農地及びその周辺農地において、大区画水田（標準区画50a）としての整備が進んでいる「宇部川地区」の取組を紹介します。

1 復旧・整備までの道のり

宇部川地区は、久慈市宇部町と野田村に跨る、宇部川沿いに開けた水田地帯です。NHK連続テレビ小説「あまちゃん」のオープニングで、北鉄の車両が田園地帯を走るシーンがありますが、そこがまさに当地区になります。

平成23年3月の東日本大震災津波では、地区の約15haの農地が津波により甚大な被害を受けましたが、震災の翌春までに原形復旧・除塩工事が

完了し、県内の沿岸被災地ではいち早く「みのりの秋」を迎えることができました。

一方で、宇部川地区の農地は、5a程度の小区画、不整形で、効率的な営農が行えない状況であり、地区の久慈市側では、地域の農地を将来にわたり保全・有効活用していくため、ほ場整備事業の導入に向けた話し合いが、震災前の平成20年頃から進められていました。

隣接する野田村側においても、震災からの地域農業の復興を目指すため、水田整備に向けた気運が盛り上がり、平成24年に国の補助事業（復興交付金等）を活用し、約80haの区域でほ場整備事業に着手することになりました。



ほ場整備前の小区画・不整形水田



津波被災直後の水田

2 進められる農地の整備と組織体制の構築

ほ場整備事業の実施に当たっては、水田の大区画化とともに、農地利用集積を進める組織体制の構築が必要になります。宇部川地区では、事業の導入に向けた話し合いを行ってきた組織が母体となり、「宇部川地区営農組合」（農用地利用改善団体）が平成25年3月に設立されました。

また、整備後の地域営農を担う組織として、地区内の6名が構成員となり、「農事組合法人『宇部川ファーム』」が平成26年12月に設立されました。ほ場整備工事は、平成26年の夏に着工し、平成27年春には、地区のほぼ半分に当たる42haで完了。大区画化された農地における営農が本格化しています。

地区の担い手である「宇部

川ファーム」には、「宇部川地区営農組合」による利用調整の結果、団地化された約20haの農地が委託され、新たに導入した大型の農業機械により、効率的な農作業が行われています。

3 今後の展望

「宇部川ファーム」では、今後、農地中間管理事業による貸借を進め、最終的には50ha程度まで経営規模を拡大していく予定です。

宇部川ファーム代表の鹿糠津嘉^{かづよ}さんは、「私たちの取組は始まったばかり。まだまだこれからです。将来に繋げるために、後継者を育成しながら、組織を成長させていきたい。」と、責任感に満ちた決意を語っていました。

また、宇部川地区では、営農の低コスト化・省力化に向

けた湛水直播やグラウンドカバープランツの実証試験、稲WCSの生産を通じた耕畜連携にも取り組んでいく予定です。なお、宇部川地区のほ場整備事業は、今後、残り半分（38ha）の区画整理や暗渠排水の整備を進め、平成30年度に完了する予定です。

県内には工事着手を待ち望む地区が未だ多くあります。県では、引き続き、地域の課題を共に考え解決しながら、より多くの方に営農再開の喜びを実感していただけるよう、復旧・復興に邁進していきます。

フェイスブック

「いわてNN復興だより」

本県の被災農地等の復旧・復興状況を情報発信しています。

・・・「いいね！」をお願いします！！

<https://www.facebook.com/iwatennfukkou>



酒米の田植えに「北限の海女」が参加



整備された大区画水田で初の田植え

●このページに関するお問い合わせ

岩手県農林水産部農村計画課・農村建設課 Tel 019-629-5666 Fax 019-629-5679 E-mail: AF0006@pref.iwate.jp